

第3回目「絵画鑑賞、スポット絵づくり」



この日のために、けい先生が油絵を、あんり先生が日本画を描いてくれました。

絵画を実際に目の前で見た子どもたちからは、「表面がぼこぼこしてる!」「いいにおいがするね。」と、油絵ならではの発見の声が聞こえてきました。日本画を前にすると、「金色にひかっている不思議!」と、じっと見入る姿も見られました。

この日は、絵に触れてみたり、においをかいでみたり、そっとこすってみたりと、美術館ではできない、五感を使った特別な体験を楽しみました。



日本画では、描かれた当時の人々がどのように絵を見ていたのかを体験するため、部屋の電気を消し、ろうそくの光だけの空間で鑑賞しました。

現代の明るい照明とは異なり、ゆらゆらと揺れるやさしい灯りの中では、金色の輝きが控えめになり、お花の部分がふわっと浮かび上がって見えます。

電気のない時代の光の中で絵を見るという、今ではなかなかできない特別な体験に、子どもたちはいつもとは違う絵の表情を感じ取り、自然と静かに見入っていました。





マスキングテープを貼り、大きな刷毛で紙にたっぷりと水を含ませたあと、スポイトで絵具を垂らしていきます。すると、色がじわーっと広がっていく様子が現れ、その動きを楽しみながら表現を進めていきました。色が重なったり、思いがけないにじみが生まれたり、一人ひとり違った変化を感じながら制作が進みます。



最後にマスキングテープをはがすと、隠れていた線や形が浮かび上がり、「線が出てきた！」「きれい！」と、驚きと喜びの声があがりました。